

ポローニア

ポローニアは県花「桐」の学名です。

発行 / 岩手県高等学校PTA連合会

[事務局]盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019) 625-6386
E-mail iwa-koupren@aroma.ocn.ne.jp FAX (019) 613-7795
http://iwateken-koupren.org/

岩手の部活動を支えるPTA

部活動「ボート部」を支えるPTA

岩手県立山田高等学校ボート部

保護者 野田美花子



▲岩手県高総体

「ボート部と言ったら山田高校だよね。」と入学した娘。

ゼロからのスタートで始めたボート競技。常にサポートしてくださる顧問の先生、指導者の方々のおかげで、令和5年度県高総体では、男子シングルスカル、男子ダブルスカル、女子シングルスカル、

女子ダブルスカルが1位を取り総合優勝を勝ち取ることができました。同時優勝は、1993年以来、30年ぶりの快挙。

初めはみんな全然うまく漕げなく、何度も何度も練習し、きつい時こそ声を掛け合い辛いトレーニングも仲間がいるからこそ乗り越えられていると思います。毎日練習を行い、積み重ねることが自信につながり、より上を目指しているという強い気持ち芽生え、体力、気力、そして人間として日々成長しているなど感じます。

日々部活動を楽しんでいる子供達をこれからも私たち父母会も楽しく見守っていききたいと思います。

これからのボート競技ができる環境に感謝し、頑張っていただきたいと思いません。

最後に、子供達の部紹介の動画にたった心に残った言葉を紹介したいと思いません。「勝つことは簡単ではないけれど、だからこそ挑戦する価値がある」



▲男子シングルスカル1位ダブルスカル2位



▲岩手県高総体女子総合優勝

錦秋湖上の

最高のクルーたち

西和賀高校ボート部保護者会

内記 瞳

高橋 久美

高橋知英子

横川 知子

季節ごとに水位が変わり、様々な表情を見せてくれる錦秋湖。そして、豪雪でも有名なこの西和賀町。雪解けを待ち5月の連休を迎えた頃から、ようやく水上練習が始まります。全校生徒97名。部員20名。小規模校ではありますが、生徒たちは伝統と栄光の西高ボート部へ希望を持って入部してくれま



▲東北選手権にて

準々決勝進出を果たしました。これも毎日親身になって指導して下さる先生方のおかげです。そして、最高のクルーに出会えたこと。我が子のように温かく応援して下さる地域の皆様のおかげでもあります。いきいきと活動する子ども達を見て、この西和賀高校に入学し、ボート部へ入部してよかったと心から感じております。

保護者会の活動として、お揃いのTシャツを作成し、大会では横断幕の運搬・設置をして、頑張る子ども達を応援します。飲み物や補食等も差し入れし、保護者の熱い気持ちも一緒に届けます。本年度、高総体にて女子舵手付きクオドルプルは、15年ぶり4度目の優勝。北海道網走湖で開催されたインターハイに出場し、



▲女子舵手付きクオドルプル 網走湖でのレース



▲横断幕を張って応援

「風を起す親でありたい」持続可能なPTAのために 清水成樹岩手県高P連元会長の受賞を祝う

PTA活動
振興功労者賞



▶2022盛岡大会でのパネルディスカッション

物事はハートで見なくてはならない。本質を見極める目を持ち、子どもの成長とともに親も成長したい。役員となった機会をチャンスと捉えて行動してはし。清水成樹さんは会長として初めて臨んだ会議でそう語った。「新しい時代を感じ、風を起す親でありたい」積極的に行動する清水さんの姿勢を感じた。令和2年度予定だった岩手県高P連結成70周年行事は、規模を縮小しながらも翌年に延期された。それは「コロナだからこそ育めることがある。努力し工夫する姿を示したい」と

いう清水さんの心意気と状況を見ながら的確な判断の賜だったと思う。80周年を迎える頃、コロナ時代を私たちがどう生きたか記録に残るだろう、と言う。そして、行動制限されてきた子どもを哀れむのではなく、乗り越える経験ができたことを褒めたいと語った。高校時代は夢を目標に置き換え、多様な価値観に触れて可能性と方向性を定め、その一歩を踏み出す時。その環境を支えるのが保護者の務めであるという。清水さんは「PTA活動を続ける為には何かをする」ではなく、保護者がその時代に即して成長し対応することにより、PTAは持続可能なものになるのだという課題を私たちに示した。この度の受賞を心よりお祝いし感謝いたします。
(高P連事務局)

子どもたちのために

全国大会
団体表彰

葛巻高等学校 PTA会長

千葉 信一



この度、本校PTAは、8月に宮城県で行われた第72回全国高等学校PTA連合会宮城大会に参加し全

声運動、役員による就職希望者面接指導など様々な活動を行っています。また本校は、葛巻町の支援として協力により町営学習塾や山村留学制度が充実しており、県内外から生徒が集まる学校であります。それによつて生徒数もなんと増え、地元生徒とともに学習し、地域交流を行うなど、生徒たちにとってもよい刺激になっています。これからも子どもたちが安心して学校生活を送れる環境、将来の夢に少しでも近づけるようサポートできるPTA活動を行っていきたく考えています。今後も一体感を持って円滑に進めていければと決意を新たにPTA活動に取り組んでいきたいと思っています。

受賞おめでとう ございます

☆令和5年度PTA活動振興
功労者文部科学大臣表彰

岩手県高P連
元会長 清水 成樹
岩手県高P連
事務局長 佐藤 尚

☆令和5年度優良PTA
文部科学大臣表彰

花巻南高等学校PTA
☆令和5年度岩手県教育表彰
花巻高等学校PTA

☆令和5年度全国高P連
会長表彰(宮城大会表彰)
(団体表彰)

葛巻高等学校PTA
盛岡北高等学校PTA
(役員表彰)岩手県高P連
前会長 大柏 良

☆令和5年度東北地区高P連
会長表彰(福島大会表彰)
(感謝状)

盛岡第一高校 大柏 良
葛巻高校 高宮 文昭
盛岡第二高校 村上智加子
黒沢尻北高校 太田 宣承

<表彰状>
水沢工業高校 小野寺 勝
大船渡高校 今野 義也
盛岡農業高校 八重樫正尚

☆令和4年度東北地区
広報紙コンクール

◇最優秀賞 盛岡北高校
MORIKITA 第2号
◇優秀賞 一関第一高校
温故知新No.153
◇優良賞 黒沢尻北高校
黒陵 vol.142

第72回東北地区高P連福島大会

7月6日(木)〜7日(金)

届けよう、エール

未来を切り拓く子どもたちへ

災害やコロナに見舞われてきた中、昨年夏の盛岡大会閉会式での福島県高P連によるPRから1年。福島さんの温かさが伝わる大会だった。

岩手県からは165人が参加した。大会成功を祈願する福高校弓道部の巻藁射礼で会場は静けさに包まれた。

続く開会式では各種表彰がおこなわれ、本連合の大柏良前会長が代表受領しユーモア溢れるお礼の言葉を述べた。研究協議では花巻農業高校の志田藤ひとみ会長が「子どもたちと共に歩むPTA活動」PTA活動をとおして共に学ぶこと」と題し、コロナの影響は全てが悪いことだった訳ではない、制限された生活を送る

第72回全国高P連大会宮城大会

8月24日(木)〜25日(金)

カメイアリーナ仙台・仙台国際センター 他

豊かな杜につむぐ虹の光

しなやかな強さで生き抜く力

平成27年の岩手大会につぐ、東北での全国大会が宮城県で開催された。全国からおよそ6,000人、岩手県からは1,000人が参加した。

24日の分科会では宮城県高等学校合同合唱団による「花は咲く」の美しいハーモニーで幕を開けた。東北大学川内萩ホールでの第6分科会では主権者教育、現代的諸課題を乗り越える力を、善悪の判断力と美を感じる能力、これらの重要性が述べられた。考えることが人間を強くするという。学生パネリストからは「子どもに選択肢を与えて意見を持つ練習をさせてほしい」「日常の中に主権者としての種が蒔かれていると感じる」「意味のある投票率が大切だ」との声があった。

翌25日開会式では世界中で公演を行う「白A」のパフォーマンスが近未来を感じさせた。表彰式の後、仙台育英高校野球部の須江航監督の講演「伝

子どもたちのために良いものとは何か考える気持ちが強くなったと述べた。午後は「東北の災害リスクと子どもたちの未来」と題する気象予報士の斎藤恭紀氏による講演があった。災害を歴史的な視点で捉えること、その土地の履歴を認識することの重要性が示された。

また、原町高校箏曲部、福島高校ジャズ研究会の演奏、さらに古閑裕和氏の母校福島商業高校吹奏楽部による演奏が披露された。まさに「未来を切り拓く子どもたち」が成長し羽ばたいていけるようにとの願いがこめられた大会だった。次期開催地は山形市。
(高P連事務局)



▲花巻農業高校 志田藤ひとみ会長



▲大柏さんお礼の挨拶



▲広報紙最優秀賞受賞 盛岡北高校田口副会長



▲茨城県高P連の皆さん



▲大会旗返還



▲大柏良 前会長

わる言葉、失敗から学ぶ」があった。目標や理念のもとにひとり一人が考え、学び続けて、実行しやりきること、「連うことを面白い」と思えることの重要性、情熱と素直な心で失敗からも学び自分が通れる道を探ること、すなわち、人生は敗者復活戦であるというメッセージをいただいた。甲子園から戻られたばかりの監督ご本人の登壇に会場は万雷の拍手に包まれた。来年は茨城県での開催。歴史の町で変革を！新たな時代が目に入らぬか、宮城県の町田さやか会長から全国会長、茨城県高P連へと受け継がれた大会旗は時代の風に大きく翻り、宮城大会は閉幕した。
(高P連事務局)

馬には乗ってみよ人には添ってみよ

東北大会
感謝状

盛岡第二高等学校PTA前会長

村上智加子



7月6日〜7日に行われた東北地区高P連福島大会において感謝状を頂戴しました。お世話になった皆様

方のお陰様で、私こそ皆様方に感謝状を差し上げなければなりません。PTA会長在職時は、盛二が高P連盛岡地区の当番校であったので、進路対策委員長も拝命しました。東北地区の進路対策委員会と国際教養大学に研修に行った際には、盛二の卒業生が入学したばかり、またキャンパス内を案内してくれた学生さんが「盛

岡生まれです。」ということでも、嬉しい偶然によって、一層充実した時間を過ごすことができました。各校の会長さんのお話を伺っても、役員を引き受ける方はそれほど多くないのが現状です。しかし体験してみると、PTA活動は楽しいこと、嬉しいことがたくさんありました。特に第71回の東北地区高P連盛岡大会は、子どもたちの活動を目の前で見ることで、盛二から参加した会員は終始頬が緩みっぱなしでした。子どもたちは親に見せる顔以外の顔で「高校生」しています。PTA活動に関わったことで、子どもや学校の多面的な顔を見ることができました。多くの方が参加しやすいPTA活動のありかたも工夫されています。今後の益々のご発展を祈念致します。

淡い光の中で

企画・東北大会
感謝状

岩手県高P連 前会長

大柏 良



今回のお題は「全国高P連会長表彰を受けて」。そこで書くべきことではないが、「特別なことはしていない」と何度か辞退を願った。私より相応しい方は多い。テレビ屋の私は、震災以降作り続ける番組がある。被災した街を巡り、出会った方に今の思いを紙に記してもらおうというもの。あの地震が起きたとき、陸前高田市であったこと。車いすの生徒は机の下に頭を隠すことができなかった。その時、その生徒に覆り、身を挺した先生。

津波で孫を亡くした福島市の女性。「孫はこのまま忘れられるのかな」と、孫が通った高校の先生の前で呟いた。先生は生徒会と話し合い、亡くなった生徒の記念樹を植え、毎月11日に追悼の会を始めた。それは、今も続く。ある被災地の父。公務員である自分は、災害時にはその対応のため家族と一緒にいられない。現在高3の娘に1年間の防災講座を受けさせた。「自分の命を自分で守る」。親として残せる最高の財産…。

親として、教員として表彰されるべき人は多い。いま、PTA役員の職を辞し、淡い夕日の中でこの文章を書いている…が、来春は、浪人生と現役のダブル大学受験。その下には高1、中2が続く！淡くない！ギラギラです！

過去現在未来、感謝の心は循環している

東北大会
感謝状

黒沢尻北高等学校PTA会長

太田 宣承



この度、東北地区高P連会長表彰感謝状を賜り、驚きと感謝の気持ちで授かって参りました。たまたまこの

2年間、黒沢尻北高校のPTA会長が輪番制で県の役員に自動的になる中で宛職。しかも2年目は調査広報委員長として役を賜ったおかげで、東北6県の様々な委員長や先生に出会い、凝り固まっていた頭にガツンと刺激を賜って目が覚めた時間を与えて頂いて…。むしろ私のほうこそ、この巡り合わせに感謝でしかありません。

コロナ禍のため、私が調査広報委員長になる以前の2年間は、会議は勿論リモート、広報紙の審査すら集まって議論を交わすこと叶わず、審査の難しさを痛感していたと承っていました。そこからすれば、6県の委員長と先生が一堂に会し、専門の先生の講座を直に拝聴し、観るポイントや基準などの審査の素地を身につける研磨の場も設けられ、深い議論が成された実感しております。その審査の素地は、事実を素直に観る力であったり、普段冬眠しているかのような我が感受性を引き出させてくれる豊かな時間でもありました。

豊かな体験により身についた感性が色あせない内に、次は我が子に、母校にお裾分けできたらと思っております。心より、おかげさまでした。

子供たちのエール、私たちがこぼれる涙

東北大会
発表

花巻農業高等学校PTA会長

志田藤ひとみ



去る7月6日〜7日の2日間、「届けようエール」〜未来を切り開く子どもたちへ〜をテーマに福島県福島市で第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会が福島市のパルセいざが及びホテル福島グリーンパレスで開催されました。私は、岩手県を代表して本校PTA活動の取り組みについて発表させていただきました。

発表会場のパルセいざがは、想像以上に広い会場東北の各高等学校から参加したPTA役員や関係の先生方がたくさん参加されていました。オープニングには桶高の「巻藁射礼」が行われ、会場の雰囲気が変わるほど素晴らしい、私自身が日頃から弓道に携わっていることもあり、とても印象に残りました。また、福島県の高校生の皆さんによる原町高校箏曲部、福島高校ジャズ研究部、福島

商業高校吹奏楽部の皆さんの発表はとても感動いたしました。さて、研究協議会の直前まではこのような大舞台での発表は今後はないだろうと覚悟を決めて臨みましたが、予想以上に緊張していたため、発表の持ち時間である8分を約2分もオーバーしてしまいました。本校では農業クラブ活動が盛んで、日頃からプロジェクト活動を行っており、人前で自分の考えをしっかりと話すことを普段から練習している子どもたちを改めて尊敬する気持ちになりました。また、研究協議会で東北各県代表校のPTA活動紹介を見て感じたことは、アフターコロナのPTA活動は再開ではなく、新しい事を取り入れながら学校と良い距離感を保ち、子どもたちが健全な学校生活を送るためのお手伝いをするのだと感じました。そのためには、保護者間の交流や情報交換は必要であり、SNSなどをうまく活用していくことも今後重要なことではないでしょうか。子どもたちの活動が広がるほど発想も豊かになる難しいこともあるかと思いますが、挑戦を後押しできるPTA活動になればよいと思います。

つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること 第23回母親会員交流会 令和5年9月27日(水) サンセール盛岡



▲講演会の様子

今年度は、県内40校から約90名の会員が出席。母親委員会は今年6月に行われた定期総会において、健全育成委員会と統合することが決定しており、同交流会も次年度以降は名称や内容を検討した上で継続する予定です。「母親会員交流会」という名称では最後の開催となり、来賓には秋田県高P連母親委員長代理の吉川ひかる氏にもご出席いただきました。

交流会は、西山広美委員長の一「本日は、互いを認め合う優しい社会で子どもたちが輝いていけるよう学び、他校の方たちとも交流を深めたい」との挨拶で開会。今年度も交流をおか女性センターの高橋和佳子副センター長をお招きし、「知っておきたい性の多様性のこと」と題して講演いただきました。

高橋副センター長は岩手県庁に入庁後、平成12年からよりおか女性センターで勤務。平成18年には岩手県第一号のフェミニストカウンセラー認定資格を取得し、平成30年より現職に就いています。

よりおか女性センターでは生き方や仕事、家族、職場の人間関係などさまざまな相談を受け付けていますが、特に多いのは30〜50

代の子育て世代による相談です。昨年度からは男性職員が男性からの相談を受け付けるほか、電話でLGBTQに関する悩みを聞くことにも取り組んでいます。

高橋副センター長は「女らしさ、男らしさ」など、性別による無意識の偏見や思い込み（ジェンダーバイアス）がいじめや暴力DV、セクハラにつながると解説。誰もが多様な性を生きているとし、子どもにカミングアウトされた際には、まずは話を聞いて受け止め、困っていることがないかを確認すること。そして信頼できる書籍やサイトを、本人だけでなく親もつなげることが大切だと伝えました。

また今年度の活動発表については、釜石高校が「SDGs×多世代間交流」タオルを通じて地域の方々と子どもたちの交流の場を」と紹介しました。

これは地元企業のインターンシップに参加した同校の卒業生が、不要なタオルを集めて雑巾にリメイクし、小中学校に寄付する取り組みを提案したことがきっかけです。母親委員会も協力してシニア世代と高校生が交流しながら雑巾を作り、目標としていた100枚を超える187枚を制作。市内の小中学校に寄付しました。

同校の木村夏子母親委員は、「今後も無理のない範囲で活動を続けるとともに、寄付された不要なタオルは雑巾以外の用途も検討していきたい」と語りました。

さらに今年度の交流会では、以前から要望のあった情報交換も実施。会員同士が活動発表に対する感想や意見、日頃の活動に関することなどを自由に話し合い、情報を共有。参加者は限られた時間の中で積極的意見交換し、交流を深めていきました。その後、設けられた活動発表への質疑応答も積極的に挙手する会員の姿が見られ、「非常に参考になった」という声も上がっていました。

閉会式では、秋田県高P連母親委員長代理の吉川氏から「これまで23年間、親交を築いてきた功績と、新しい形でスタートを切る姿勢に敬意とエールを表したい。秋田県でも母親委員会という名称は変わっていくと思うが、委員会が設立された経緯を振り返りながら、より良い道を探していきたい」と、お話しいただきました。

岩手県高P連として母親委員会の名称は変更されますが、これは各単位PTAや各地区における母親委員会の活動を制約するものではなく、子どもたちの幸せな未来のためにできることを模索する姿勢は変わりません。来年度からは新たな形で交流会も行って参ります。

**花巻南高等学校PTA会長
伊藤ケイ子**

この度、本校PTAは第72回全国高等学校PTA連合会宮城大会で、輝かしい賞をいただくことができました。私が受け継いだタイムミングでありましたが、教職員の皆様、同窓会、先輩役員皆様の活動の賜物であります。これまで、ご支援いただいたすべての皆様に敬意と感謝を申し上げます。

本校は明治44（1911）年から今年度まで112年間を駆け抜けた学び舎になります。昨年度まで、新型コロナウイルス感染症拡大のさなかでありながら、ワークを凝らしてPTA事業が実施されてきました。なかでも、今回受賞のきっかけとなった「朝の声かけ運動」は、大きな声を出せないという異なる行動制限のなかで、メッセージボードをもち目と目でコミュニケーションを取ろうという先輩PTAの方々のアイデアから生まれたものです。必要は発明の母、とはよく言い当てています。しかも、メッセージ

ポードを保護者、生徒会メンバーや先生方、まさにPTAが揃って実行します。枠組みを超えて普段会うことがない生徒や先生、友人の親などが朝ちよつと早め集まって、約30分間、登校生徒と合図を交し合う風景は、何気ないことなのですが、どこか懐かしさを感じるほどのとした豊かな風景です。本日に素晴らしい発明であり生徒への愛情なしては出てこなかった活動だろうと思えます。これからは生徒、学校、そして地域を応援する気持ちを包み隠さず表に出して、保護者一同力を合わせてゆきたいを思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

▲ひと声かけ運動

▲文化祭母親委員会まんまカフェ

▲文化祭母親委員会まんまカフェ

優良PTA文部科学大臣表彰(団体)を受けて

優良PTA
文部科学大臣表彰

▲質疑応答

▲情報交換

▲秋田県高P連母親委員会 吉川ひかる様

▲情報交換

▲活動発表

▲もりおか女性センター 副センター長 高橋和佳子様

▲西山広美委員長

▲中村美香母親委員

▲岩手県教育委員会 生涯学習文化財課 総括課長 小澤剛幸様

第33回会長研修会

令和5年10月20日（金）

会場 ホテルメトロポリタンNew Wing



▲岩手県教育委員会 生涯学習文化財課 総括課長 小澤則幸様



▲高P連会長 川上博基



▲清水成樹 元会長

令和5年度の岩手県高P連第33回会長研修会は、10月20日にホテルメトロポリタンNew Wingで開催されました。会場には県内65校のPTA会長または副会長が集まり、研究協議や講演会などを実施。活動事例発表においては次々と質問の手が挙がるなど、活発な意見交換も行われました。

研究協議Ⅰでは、水沢高校PTAの五十嵐智行前会長より「水沢高校新制服の選定について」と題し、同校の取り組みを発表。在校生や保護者、学校の職員、PTA役員のほか、地域の中学生からも

意見を集め、新制服づくりに役立てました。令和4年度から新制服が導入され、現在はブレザーとスラックス、スカートから自由に組み合わせ着用できるようになっています。

次に沼宮内高校からは、同校PTA小澤啓一会長が「PTAの取り組みと未来への展望」を発表しました。「地域に愛され、応援される学校」を目指す同校では、岩手町主催の産業まつりと文化祭「沼高祭」を共同開催したほか、生徒数の減少が部活動に与える影響を考慮し、生徒がさまざまなスポーツにチャレンジできる「フリースポーツ部」を創設。両校の取り組みは他校にとつて大いに参考になるものであり、新制服導入後の生徒の反応や、産業まつりと文化祭を共同開催するために要した準備期間など、多くの質問や感想が寄せられました。

また今年度の講演会は、岩手県高P連元会長の清水成樹氏を招聘。日本のPTAにおける歴史の中で岩手県が果たした役割を解説し、それを踏まえて自身の経験をもとに現在の課題について考察しました。

多くのPTAが抱える「役員のなり手がいない」という問題は、会長が謙遜も含めて「本当はやりたくなかったんだけど仕方なく…」と消極的な発言をするよりも、与えられた役割を楽しむ姿を見せることが大切だと解説。清水氏は「運良くPTA役員や会長になった人は、ほかの人が見えない学校や子どもたちの姿が見えてくるという特典があります」とした上で、生き生きと活動することが周囲の抵抗感を軽減し、なり手不足の解消



▲「PTAを考えてみる」清水元会長による講演

につなぐとアドバイスしました。最後に清水氏は、「PTAの要・不要を議論する前に、PTAをどう活用していくかが重要です」と語りました。主役である子どもたちをサポートするための取り組みを各単位PTAで考え、それを研修会などで持ち寄り、他校との交流で得たものを持ち帰る。県高P連の会長研修会は、そうやって互いに切磋琢磨することのできる「仲間の会」であってほしいと伝えました。

その後、研究協議Ⅱにおいては、事務局より来年度以降も母親会員交流会を継続すること、名称はアンケートをもとに検討する意向が伝えられました。また近年ではPTAの加入に難色を示す保護者も見られますが、PTAの意義を改めて確認するとともに、困ったときは事務局に相談してほしいと伝えられ、閉会となりました。

岩手県教育表彰を受けて

花泉高等学校PTA会長
千葉徳三郎



この度は、栄えある岩手県教育表彰を頂くことになり大変嬉しく思いますと同時にこれまで本校のPTA活動にご協力頂いた保護者様はもちろんです、校長先生をはじめとする先生方、これまでの活動を支えて頂いた諸先輩方、地域の方々のお陰であると思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、ここ数年大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症ですが、感染症上の位置づけも五類となり、これまでの制限のあった活動を再開すべく、PTAの役員をはじめ様々な方と検討を重ね、環境整備活動や声掛け運動を行いました。さらに、文化祭への協力など、これまで出来なかった活動や新たな活動を模索中です。

現在、花泉高等学校は全校生徒が100名を切りPTA会員も少ない小規模校として、どのように活動していくかが課題となっています。今年度も実施している学校魅力化プロジェクトの中で、地域等と連携し、より良い活動が出来るように支援していきます。そして、今後も子供たちのため、様々なことをPTA会員皆で考える機会を増やしていければと思います。



▲声掛け運動



▲環境整備

第53回 事務局長研修会

令和5年11月13日(月)
会場/サンセール盛岡(盛岡市)



▲岩手県教育委員会 生涯学習文化財課 総括課長 小澤則幸氏

第53回事務局長研修会は、サンセール盛岡にて64校の事務局長が集まり開催されました。県高P連の川上会長からは「今年度は学校行事やPTA活動を、コロナ前と同じ形で行った学校が多いと思います。ここ数年とは異なる対応が求められる部分もあると思うので、ぜひ他校と情報を共有していただきたいと思います」と挨拶がありました。

事務局からの報告・諸連絡では、次年度の計画や各委員会を担当する地区の割り当てのほか、来年度から母親委員会との統合が決定した健全育成委員会に女性委員が2名増員されることと、同委員会が新しい母親会員交流会(名称は検討中)の運営を担当することなどが説明されました。

続いて行われた情報交換では、PTA会費の値上げや卒業式の出席者に制限を設けるかなどを拳手制で確認。コロナ禍の影響を受けて卒業式における保護者謝辞を取りやめた学校がある一方で、PTAに謝辞の有無を確認した上で継続しているケースもありました。

研修会の最後は地区ごとに分かれて今後の打ち合わせを行い、終了した所から順次解散となりました。



▲情報交換



▲地区ごとの打ち合わせ

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を支える安心の寮生活～

[会館施設概要]

- 所在地:〒171-0043 東京都豊島区要町2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、東京外口要町駅 徒歩5分
- 資格:岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人
- 寮費:月額80,000円(朝夕2食)、入寮時費用 10万円
- 室内:洋室13.5㎡(全室個室)
- 設備:机、本棚、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器等
[申し込み・問い合わせ]
公益財団法人 岩手県学生援護会
(岩手県学生会館内)
TEL:03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>



本年6月に所属校及び県の会長に就任させていただいてから、あつという間に半年が過ぎました。この間、定期総会、理事会、合同委員会、会長研修会等の会議や教育懇談会を通じて多くの皆さんとお話をさせていただくことが出来ました。

今年度の大きなテーマとして、健全育成委員会と母親委員会の統合に伴って、来年度以降どのように活動して行くか、母親会員交流会の名称や在り方をどのようにするのかの検討が挙げられます。私自身も合同委員会や健全育成委員会・母親委員会の合同会議に参加させていただきました。母親委員の皆さんの熱い思いを聞かせていただきましたので、来年度以降も是非従前の母親委員会の活動を生かす形に行ければと考えております。

9月27日の母親会員交流会に参加するのを楽しみにしておりましたが、肝心なところで持ち前の勝負弱さが出てしまい、直前にインフルエンザに罹患して5日間自宅閉を余儀なくされ、参加することが叶いませんでした(後日事務局から非常に盛会であった旨の報告をいただきました)。名称をどのようにするかは今後の検討課題ですが、来年こそは是非とも参加したいと思っています。



母親会員交流会

岩手県高P連会長
川上 博基



▲奉仕活動では幟旗を活用



▲クラスマッチで水菓を贈呈



▲全校奉仕活動「クリーン作戦」



▲特別助成金で購入したかき水機



▲文化祭での母親委員による模擬店

文化祭(一般公開は4年ぶり)では、高P連特別助成金で購入したかき水機を活用し、母親委員によるかき水の販売をし、第2校章を記した金高餓頭の販売も2時間で100個売れるなど大盛況となりました。

10月にはPTA研修旅行として、宮城大学、東北福祉大学の見学を予定しております。社会に貢献できる生徒を育てよう、様々な学びを深めて、保護者も教職員と共に力を合わせて協力していただきますよう宜しくお願いいたします。

がんばる岩手

第26回

金ケ崎高等学校 PTA 会長 生野 正雄



目標に向かって
動き出す

世界中がコロナ禍となる中、私の子供が金ケ崎高等学校に入學し2年半が過ぎました。

今年度においては新型コロナウイルス感染症が5類となり、ようやく明るい兆しが感じられたように思われます。昨年度生徒連の発案を基にデザインし作成した第2校章(不死鳥フェニックス)のように、環境や心の動揺に負けず目標に向かって行動する前向きな新しい自分に生まれ変わって、羽ばたきたいことが期待される年となりました。

5月に行なわれた全校奉仕活動では生徒達は、生き生きとした笑顔で元気に挨拶を行い、町の清掃活動(クリーン作戦)を通じて、金ケ崎町をより良く知る機会となりました。この活動を通じて環境や防災について考える地域への感謝の気持ちも育んだようです。PTA特別助成金で作成した幟旗を持って活動することで、地域の方々に金ケ崎高等学校の活動について知っていただく機会ともなりました。

岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
小綿真理子
(盛岡商業高等学校)

より良い活動へ 母親委員会とともに

今年度委員長を務めさせていただき、盛岡商業高校PTA会長の小綿真理子です。一年間よろしくお願ひいたします。

健全育成委員会の主な活動内容は、「登校時一声運動・マナーアップ運動」です。私は今年初めて参加したのですが、登校していく生徒や地域の方々を声をかけ、顔を見合わせ挨拶をする事で、私たち保護者との繋がりが大人が見守っているよという事が伝わってくれたら良いなと思いました。参加してみても感じたのは保護者の参加がとても少ないという事です。朝の忙しい時間なので、仕事やお家の事情、離れた地域にお住まいの場合など、

気軽に参加しづらいというのが主な理由だと思います。そんな中でも一人でも多くの保護者の方に協力していただきたいので、どのような仕組みにすれば参加者が増やせるかが今後の課題です。

先日、青森県で開催された東北地区高P連健全育成委員会に参加し、各県の活動報告や意見交換をしてきました。その他、最近では自転車保険の義務化が進んでいる地域も増えてきているということで、三井住友海上火災保険株式会社の方から事例なども含めて詳しくお話していただきました。学校でもこのようなお話を生徒や保護者の皆さんに聞いていただく機会を作れたら良いなと思いました。

来年度は県の高P連から母親委員会がなくなり、健全育成委員会として一緒に活動していくことになりました。それに向け、臨時の会を設けて母親委員会の皆さまと話し合い、来年度の活動がより良いものになるように進めてまいります。

良い形でバトンを渡せるように努めてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



進路対策委員長
志田藤ひとみ
(花巻農業高等学校)

寄り添って考える

去る6月21日(水)、第一回東北地区進路対策委員会が開催され、各県それぞれの地域事情により就職・進学状況に違いが生じているなど内容の濃い情報交換ができました。

また、9月9日(金)日には秋田公立美術大学・パーティエギャラリーYATA Aを会場に第2回東北地区進路対策委員会が開催されました。秋田公立美術大学の見学では、漆器やガラス工芸に取り組んでいる学生さんの様子を見学させていた

いただきましたが、額に汗を流しながら一所懸命に作品作りに取り組む姿がとても印象的でした。説明していただいた先生のお話では、この大学では最初から専攻分野を決めるのではなく、学習活動を進めていく中で自分の専攻を決めるという方法をとっているのが特徴で、このことが県外からの希望者が多い要因となっていると聞きました。

その後、会場を移して研究協議・情報交換会が行われましたが、今まで協議会や見学研修をとおして感じたことは、自分の道を見つめるタイミングは人それぞれでいつかは見つかる、見つめることです。その為に、親として出来ることは、レールを敷くのではなく、沢山の選択肢を与えてやる事だと思えます。自分のことは責任をもって自分で決める。でも、大人の意見も少し足してやる。子どもに寄り添って一緒に考えることはしてやりたいと思います。



調査広報委員長
千葉 栄生
(千鷹高等学校)

広報紙を通じて

毎年度、県高P連広報紙コンクールにご協力いただいていることに感謝申し上げます。

各校の広報に触れさせていただきました。様々な取組みと特徴が感じ取れ、本当にご苦労をされていることに敬意を表します。

当委員会の役割は、広報を通じて会員と子ども達の活動を目に見える取組

みにし、学校と家庭を繋ぎPTA活動の活性化を促すことだと認識しております。

特にも、新型コロナウイルス感染症により、これまでのPTA活動が困難になったことで、広報の役割は活動における要になったと感じます。PTAの活動、子ども達の様子、学校の取組み、それらを審査するこの役目の重さを痛切しております。年々、広報紙のレベルが上がってきていると伺っております。広報紙と会員皆さまのさらなるレベルアップに繋がるように慎重に審査してまいります。

これからも、広報活動からPTAの存在意義を示せるようみなさんと頑張りましょう。



母親委員長
西山 広美
(盛岡市立高等学校)

これからも母親委員会の志はつづく

日頃より、母親委員会の活動にご理解ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年度の母親委員交流会を9月27日に100名のご参加のもとに、講演会と釜石高校からの事例発表を行いました。

講演は「知っておきたい、性の多様性のこと」と題し、もりおか女性センター副センター長の高橋様からお話をいただきました。その中で、男、女にとらわれず、一人の人間としてお互いを認め合い、受け入れあうことが大切だ

と学びました。ジェンダーについては、子供たちのほうがすでに受け入れているようですが、私たち親のほうはいかがでしょうか。性のことだけでなく私たちの個性は人それぞれで多様に富んでいることを理解し、すべての人に対して、寛容性を持つ一人ひとりに向き合っていくべきではないかと私は思っています。

さて、母親委員会交流会のテーマは「つなげようみんなの心 未来を担う子供たちの幸せを願い、今できること」です。これからの世の中は、もしかするとちょっと困難なものになるかもしれません。そんな世の中を子供たちが力強く生き抜くための力を親が育ててやれる最後のチャンスが高校生活です。母親委員会としては今年度が最後の活動となりますが、母親委員交流会は統合先の健全育成委員会で行われる予定です。どうかPTA会員の皆様、子供たちが輝いて生きて行けるよう、連携して、協力し合い、助け合って交流しながら子供たちを導いていけるよう心をつなげていきましょう。

明るく 強く 豊かな心

岩手県立宮古恵風支援学校
PTA会長

箱石 一彦



宮古恵風支援学校は昭和46年に開設された崎山小学校、崎山中学校はまゆり分校を前身として、昭和54年に宮古市立はまゆり養護学校として開校しました。平成21年4月に現在の校名となり今日に至っております。小学部、中学部、高等部の3つの学部が設置されており、今年度は合計75名の児童生徒が在籍しています。

本校のPTA活動は、4つの専門部（奉仕部、研修部、事業部、広報部）で構成されています。奉仕部では、環境整備活動として、ペゴニアやひまわりの定植を行いました。研修部では、近郊の事業所・作業所の見学や、生徒の就労先の代表による講演会を行いました。広報部では、PTA会報「しおかぜ」を年4回発行し、PTA活動の様子や、行事で見せる児童生徒の笑顔を保険者に届けています。事業部では、昨年度好評だった「ユニースポーツ体験」や、初の試み



▲研修部 作業所見学



▲奉仕部 ペゴニア鉢植え



▲事業部 茶話会

「茶話会」を企画して、会員相互の交流を図っています。

昨年度まではコロナ禍で活動を縮小せざるを得ませんでした。今年度からは、感染状況を見ながら、活動を活性化していきたいと考えています。

本校の校訓は「明るく、強く、豊かな心」です。児童生徒たちがその心を育めるよう、PTAも暖かく見守っていききたいと思っています。

商工ブランドの確立

岩手県立釜石商工高等学校
PTA会長

佐々木 真吾



本校は平成21年4月に釜石商業高校と釜石工業高校の統合により新たに「釜石商工高校」として開校した新しい総合的な専門高校です。「創造 挑戦 自律」の校訓のもと、機械科・電子電気科・総合情報科で構成されています。

グラウンドの先には、釜石湾を臨む釜石大観音がそびえ立ち、さわやかな海風を感じながら勉強や部活動に集中して取り組むことができる環境に恵まれております。

初心を貫き理想を求め、先人達が築き上げてきた工匠の技と商魂の才の伝統を引き継ぎ、技術者の育成や専門資格取得にも積極的に取り組んでおり生徒の約7割が地元や県内外への就職約3割が大学等に進学しております

昨年度は進路対策委員会の実施により地元企業の企業説明会を実施しており地元企業が求める人材や具体的な業務についての説明を聞くことができました

また、生徒の自主的な活動として釜石商業高校創立60周年に誕生した「釜商虎舞」を取り入れた「商工虎舞」は生徒有志が虎舞委員会を結成し活動し



▲管内企業を招いての企業説明会(進路対策委員会)



▲体育大会 飲料販売(母親委員会)



ております。

PTA活動としては、健全育成・母親・進路対策・調査広報の4つの委員会が構成されており、街頭巡回指導や校内体育大会での飲料販売、PTA会報の発行など活発に活動しております。一致団結してPTA活動が更に活発になることを期待します。

釜石商工 永遠に栄あれ！

編集後記

日頃より会員の皆様には、県高P連の広報活動にご理解・協力をいただきありがとうございます。

2023年5月8日に国が新型コロナウイルス感染症の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類相当に移行されました。まだウイルスのリスクがなくなったわけではありませんが、マスク着用は個人判断とされ、行動制限もなくなるなど、社会は一気に賑わいを取り戻しつつあります。これを受けて、制約が多かった学校の学習や各種行事、部活動においても、コロナ禍前の風景が戻ってきています。各校のPTA会員におかれましても、様々な活動に向け大きく舵を切り進まれていることと察するところです。

近年、コロナウイルス感染症を始めとして、少子化、統廃合など従来は考えられなかった事が多く起きています。これからの子供たちが幸せに日々の学習、各種行事、部活動等に取り組めるように支えていくためには、PTAとして今何をやらなければならないか考えていかなければなりません。本会報が県高P連の会報として県内のPTA会員のつながりと今後様々な情報発信になれば幸いです。

最後に、今回の発行にあたりご多用中のところ、ご協力いただきました皆様には厚くお礼申し上げます。我々調査広報委員会も、PTA会員の皆様一人ひとりをつなぐ広報であるよう誌面作りに尽力してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

(調査広報委員長・千葉栄生)

〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 千葉 栄生 (千厩 高校)
- 副委員長 岩瀬 良久 (一関第二 高校)
- 委員 市川 清志 (花北青雲 高校)
- 佐々木 真吾 (釜石商工 高校)
- 千葉 利行 (伊保内 高校)

◇事務局

- 山本 憲 (千厩 高校)
- 佐藤 尚 (県高P連)
- 木村 智子 (県高P連)